

日本模型ヨット協会 第27回 IOM クラス選手権

日本IOMクラス協会 第19回競技会

参戦記

2023年11月4日(土)～5日(日)の2日間、第27回 IOM クラス選手権、第19回競技会が静岡県磐田市竜洋B&G海洋センターしおさい湖の水面で開催されました。出場選手は地域別に関東4名、中部6名、西日本3名の各地区トップセイラーが集まった計13名でのスタートとなりました。

レース概要は、2日間とも晴れ/曇り。初日は11時～16時、2日目は10時～15時とほぼ予定どおりの開催時間となりました。2日目は風待ちで1時間遅れてのスタートとなりましたが、合計21レース(捨てレース3)を実施する事が出来ました。今回は比較的天候が安定していたので、初日は「①西南西」の1コース、2日目は「②東北東→③東」の2コース、合計3コースで操船場所も北岸壁固定での開催が出来ました。(下図参照)



1日目	①西南西	Aリグ	11レース	北岸壁	風速2～3m
2日目	②東北東	Aリグ	3レース	北岸壁	風速2～3m
	③東	Aリグ	5レース	北岸壁	安定した東風に変わり風速あがる 3～5m
	③東	Bリグ	2レース	北岸壁	さらに風速が上がり 5～6m
			合計		21レース (150m～180m)

レース1日目

初日は西南西の安定した微風でのレースとなりました。北岸壁の操船エリアはコースに沿っており、とても見やすく風上マークも複数設置されており風向きの変化に応じて適切に使い分けられていました。また、前乗りしていた選手によって、水面に浮いているゴミを回収していただいたおかげで、2日間レースで誰一人ゴミを拾わずにレースが終えられたことは本当に感謝しております。

今回は第1レースから1位4回とスタートダッシュする事が出来ました。本大会前から竜洋において八木選手とチューニングデータを共有しながら風速に対するチューニングデータの蓄積が出来た事が大きかったと思っています。微風から徐々に変化する風速に対してフットの調整、メイン/ジブのツイスト調整など見事にハマりました。

レース2日目

2日目は朝9時の時点で北風が入っていたため風待ちでスタートが1時間遅れました。初日と全く反対の風(東北東)で風向変化が想定されたため、風上マークも4個設定されており風の振れに対して対応が出来るようになっていました。レースに際して、風速は2～3mでしたが、この先風速が上がる事が予想された為、リグチェンジを想定しつつ現在のリグのチューニングを1レース毎に確認する作業を

徹底しました。また、初日のアドバンテージに対して守りに入るのではなく、攻めつつも無理をしない事を念頭においてレースをすることを心掛けました。

風速変化

11時を回る頃には安定した東風となり、それに伴い風速も徐々に上がってきました。1レース毎にチューニングを確認し風速アップに冷静に対応できたことが大きく順位を落とさなかった要因だと思います。14時過ぎには風速6mを超えとなり各艇Bリグへのリグチェンジとなりました。風速が上がることによって、接触、マークタッチ等のインシデントが多発しましたが、個人的には普段から強風域でのレースに慣れていることが強みとなりました。

最終成績

21レース実施で3カットとなったため、取りこぼしを捨てる事ができラッキーでした。おかげさまでIOMクラス2連覇を達成する事が出来ました。なお、JMYAから優勝の副賞としてワインを頂きました。2位の八木選手は、模型ヨット経験3年目にもかかわらず安定して上位に顔を出す実力者で、レース毎にチューニングデータを開示しており日本模型ヨット界のスキル底上げを担っている牽引者であります。3位の竹本選手はJMYA会長でもあり今回のIOMクラス協会との共催実施に向けて多くの問題、課題を解決していただきました。

最後に

共催したIOMクラス協会役員、会場準備等大会を支えてくれた竜洋ラジコンヨットのメンバ、会場を貸していただいた竜洋海洋公園関係者の皆様に感謝、お礼申し上げます。また、大会を運営/サポートしていただいた中嶋氏、落合氏、杉浦夫妻、コース設定やインシデントなど適切に対応いただき気持ちの良い楽しい大会になりました事お礼申し上げます。ありがとうございました。

J-827 山脇 修